

山口市文学碑巡り No9（嘉村礒多その3）

雪舟の庭で馴染み深い常栄寺の入山受付脇に嘉村礒多の文学碑が建っています。横約2m程の大きな自然石中央に「嘉村礒多文学碑」と彫られ、左端に撰文が嵌め込まれています。この「嘉村礒多文学碑」の文字は安倍能成の書で、撰文は河上徹太郎が寄せたものです。常栄寺にこの文学碑が建てられたのは昭和32年11月と河上徹太郎の碑文に刻まれています。何故ここに彼の文学碑が建ったのか？常栄寺と礒多との関わりについて、市役所の文化財保護課に質問状を送ったところ、礒多が生前よく訪れていたことから、山口周辺の文学者仲間が礒多の25回忌に合わせて建てたものだと回答がありました。その一人が河上徹太郎だったと言うことでしょうか。河上徹太郎は代々岩国藩士の家系で、互いに山口県人と言うことから親交を結んでいたのでしょうか。小生、この文学碑の存在は高校在学時に知ってはいましたが今般漸くその建立の経緯を知ることが出来ました。最近の常栄寺は嘗ての姿とは随分変わり整備されています。帰省の折に訪れられてみては如何でしょうか。

嘉村礒多文学碑 左下に撰文



境内風景

庭園



(76期 厚東一生)